

平成 26 年度環境科学センター研究推進委員会課題評価結果

2 微小粒子状物質 (PM2.5) 中の有機炭素成分の指標化の検討

[総合評価とコメント]

本課題は、課題 1 と同様に、急務とされている PM2.5 を対象としたもので、行政的なニーズの高い課題といえる。

課題 1 では発生源の種類と地域の解析を主たる対象としているのに対して、本課題では対策実施に結び付けるための知見を得ることを目的として、有機炭素成分のうち主要な成分について、指標化が可能であるかを追求しようとするものであり、十分な知見が得られれば、対策の検討・実施に有効に活用できるものと期待できる。

既存の知見が少ない中での研究なので、ある程度の試行錯誤的なアプローチが必要かと思われるが、途中の段階での対象成分の絞り込み等、計画的な遂行が望まれる。

他の地公研との情報交換を行い、研究の効率化を進めることが望まれる。

常時監視の測定ポイント付近で採取し、他のデータと併せて解析することも必要ではないか。

不明成分の解析ならば、さらに発生源付近でもデータを取り、解析することも有用ではないか。

重要な研究テーマであると認識する。

未知の指標成分の特定は挑戦的な研究テーマであるので、戦略的な計画が必要と考えるので、研究を進める過程でいろいろ検討していただきたい。

同一の試料についてできるだけ多くの成分を分析すること（試料量を確保する必要）や、汚染源が反映された試料、特殊な環境状態に即した試料などを得ることが研究成果を出すための鍵になる可能性がある。

有機炭素成分も最初から決め打ちで分析対象を決めるのではなく、未知化合物のピークであっても定量結果の変動を解析に加えるなど、指標性の有無を検討し、もし重要な指標となる可能性があるなら同定を進めるなど、指標物質を見落とさない戦略を立てていただきたい。

課題 1 にも関連するテーマで有り、PM2.5 関連の知見を深めるのに重要なテーマと考える。これまで知見の少ない有機炭素成分を調べることにより、起源等も推定できる可能性を持つといえる。なお、先行自治体もあるということであるので、なるべく様々な面から検討し、初年度は試行錯誤的な側面も多いと考えるが、研究の方向性を探ることは重要と考える。他機関との連携なども視野に入れ調査を進められることを望む。予想される成果は重要であり、またセンターでの分析技術向上にもつながることが期待される。

(数値的評価)

評価者 4 名

評価の内容	評価項目	ランク
課題設定の妥当性	背景と必要性	5 (2人) 4 (2人) 3 (0人) 2 (0人) 1 (0人)
	優先性	5 (1人) 4 (2人) 3 (1人) 2 (0人) 1 (0人)
計画の立案と実施方法	研究内容	5 (0人) 4 (4人) 3 (0人) 2 (0人) 1 (0人)
	計画の妥当性	5 (0人) 4 (3人) 3 (1人) 2 (0人) 1 (0人)

ランクは、5点満点の評価で5 (優) ~ 1 (劣)